

〔幕朝年中行事歌合上〕一番 左 兔羹

折にあへば千代の例と成にけり雪の林に得たる兔も略○中

判云兔羹の御事歌にも言葉にも盡しぬれば又何をかいひ出むげにこゝらのいやしきものまでもけふは元日なりといへば雑煮もちるに向はぬものもなきめでたき御代のためしなるに雪ふみ分て狩得しを奉りしもむかひゐたまひしも其ころの御事をふかく思ひ奉るべきこと也されば今のよまでも年の始の御式となれる御掟たうとしともいはむかぎりはあらじかし

〔官中秘策^{十五}年中行事〕兔之御吸物之由來者御先祖世良田左京亮有親公者上野國徳川を領し鎌倉之公方持氏之御家人也然るに永享年中足利義教將軍者鎌倉之公方足利左馬頭持氏と不和之事出來して合戰有しに持氏公終に自害ありし後は關東は皆京都將軍之下知に應じ管領上杉憲實が威勢盛に大名彼に相從ふ東國の威權大に衰へり鎌倉公方の殘黨を搜しに就中新田一族においては根を斷葉を枯すべしとの下知なり然るに有親公は本より新田の族なる故に徳川に安堵なされがたし永享十一年三月上旬有親公同子息親氏も徳川を遁れ出相州藤澤淨光寺において髪を剃有親公は長阿彌親氏は徳阿彌と號せり左あれども東國のすまひ叶がたきによ藤澤を立出信州に向ふ去る程に信州小笠原清宗が三男林藤助光政といふものあり持氏在世之時數年近習して勤仕しける所に讒するによりて知行沒收せられ名字を政林と號し信州の山中に蟄居して有ける處有親親氏鎌倉にありける時互むつまじかりけるが十二月下旬彼藤助を尋て彼所に至りける光政大に悦び如何もして饗應なさんとすれども家貧して心に任せず十二月廿九日光政雪を踏わけて狩せしに兔を一疋捉得たり翌十二年庚申正月朔日有親父子へ雑煮をすゝめて此兔を吸物にして年始を祝しけり